

令和5年度第2回狛江市市民活動支援センター運営委員会 議事録

1 日時 令和5年8月3日(木) 18:30~20:15

2 場所 市民活動支援センターこまえくぼ1234

3 出席者

委員：青木香奈 伊東達夫 伊藤聡子 上田英司 梶川朋 佐藤新哉 長尾眞木 星恵子
松村正俊 門脇由美子

事務局：大山寛人 日比野浩 武藤慎哉

4 委任状 委員：伊藤輝芳 重平光伯 穴戸裕子

5 議題

(1) 報告事項

①指定管理業務報告

事務局より資料に基づき報告がされた。

(委員長)

質問等があれば出してもらいたい。

(委員)

運営委員会の報告書で実施したことはわかるが計画の進捗状況はわからないので、こまえくぼの現状を知るためにどういう形で報告してもらったらいいか考えてみてもよいのではないかな。マッチングの時にマッチング先の団体を選択する際の基準などを共有できるとよい。

(事務局)

相談内容に応じて内容を聞き取ったうえで、より適すると思われる団体につなぐようにしている。

②専門部会の報告

事務局より資料に寮に基づき報告を行った。

(委員長)

質問等があれば出してもらいたい。

(委員)

報告資料についてももう少し具体的な内容がわかる記載にしてもらえるとより理解が深まると思う。

事務局より、具体的内容について説明を行った。

(2) 講義事項

市民活動支援センターの今後のあり方について

(委員長)

移転に向けて市民活動支援センターの在り方がどうなるかという点は重要である。運営委員会と

して社会福祉協議会会長に提言をし、それを粕江市に伝えてもらうという手順を踏んでいきたい。まずは、本日各検討チームで意見交換をしていただきたい。年内には意見をまとめて社会福祉協議会会長に提言という形で提出できるようにしたい。

検討チームごとに意見交換を行い、それぞれ話し合った内容について発表した。

[きっかけ講座チーム]・・・どういうセンターが続いていったほしいか

- ・あそこに行けば相談にのってくれる、相談を受け止めてくれるという存在であるということが広まってきたので継続してほしい。
- ・団体や個人からの相談をまずは受け止めるというあり方、機能が必要ではないか。
- ・市民のボランティアに対する関わり方やイメージが変わってきている。市民に今の課題など啓発的なこともやっていけるとよい。

[社会資源活用の推進チーム]・・・未来について

- ・市民センターに入るにあたり、公民館活動と市民活動が刺激し合えるとよい
- ・公民館と市民活動支援センターの役割のすみ分けをどうしていくか
- ・若い世代が市民活動に触れ関わりやすくするために、夜間対応などこれまでこまえくぼでできなかったところができるとうい。
- ・市民センターに移転するまでの仮住まいの期間も市民活動が停滞しないようにしないといけない。
- ・活動場所、相談場所に困る、活動場所難民が生じないようにしないといけない。
- ・打合せて利用していた人たちがどういう場所なら使えるのか、社会資源チームのこれから作るうとするマップがこの機会にこそ必要。
- ・仮住まいの場所は、プレハブを作ってもきちんとした場所ですっかり確保することが必要。市にも大事に考えてほしい。
- ・仮住まいの期間はアクセスが悪い可能性もある。市民活動が停滞しないように、市内のあちこちに職員が出向いていく。地域センターとかではなく民間の場所で窓口を開設して一定期間相談にのるなどもできるのではないか。「でまえくぼ」

[調査研究チーム]・・・団体支援について

- ・小規模団体が多い地域なので、小規模団体に目を向けてほしい。
- ・市民活動団体へ専門的な支援（組織基盤強化やネットワークキング、財源確保、広報など）について伴走支援できる機能を残してほしい。
- ・市民センターに入ることも踏まえて、公益性をより広げて深める視点で団体支援を行ってほしい。

(委員長)

今日の委員会の内容を踏まえて正副委員長と事務局で意見を言語化し、素案を作成する。運営委員会として検討チーム全体に横断的にかわることについては、正副委員長で作成する。作成した

素案に対して各委員から意見を出してもらうようにする。

そのため、臨時運営委員会 11 月 9 日（木）を開催して、言語化した修正素案について協議することとしたい。

（３）その他

・区市町村ボランティア・市民活動センター運営委員及びセンター長等合同会議について

次回 11 月 9 日（木）18:30～